

巻 頭 言

兵庫県生物学会会長 多 胡 潔

兵庫県生物学会機関紙「兵庫生物」の第6巻第1号が発刊の運びとなりました。日頃ご多忙にもかかわらず、ご研究にご苦労されてきた貴重な原稿をお寄せ下さった会員の皆さんに、心から敬意を表します。また本誌の編集に格別のご厚配頂きました編集部の先生がたに厚くお礼を申し上げます。本誌の編集については、会員の皆さんよりいろいろご希望がありました。従来通り準学術雑誌になりました。教壇のご指導には直接お役に立たないご不満もありませんが、伝統ある本学会の発展のためには価値高いものと思います。

本年の学会の行事については、5月に総会、8月に野外観察、11月に講演ならびに大学入試研究会、月々の現代生物学セミナー、高校生物ハンドブックの出版、本誌の編集など各方面に広くそれぞれ担当先生がたのご熱意によって、活発に適切に運営を進めて頂きました。本会のため誠に喜ばしいことでありまして、深く感謝しております。

本年は高校部会へ県（文部省）よりの補助金を受ける

ことになりました関係上、高校部会報を発刊することになっております。これには現代生物学セミナーの記録、高校生物教育に関する論文をのせたいと思いますので、1月中旬までに葺合高校または北条高校へ原稿をお寄せ下さるようお願い致します。

次に総会で決まりました県立自然科学博物館の設立の問題については、委員の先生がたで陳情書を作成して頂きましたので、去る11月5日に細見、藤本両氏のご同行をお願いして、一谷県教育長、高木次長、松井次長に陳情書を持参の上、特に懇願致しました。この趣旨についてはご賛同をえておりますので、今後更に実現するよう努力を続けます。

会員の皆さんのご協力ご指導をいただくようお願い致します。

終りに、秋も漸く深まり、雪のおとずれる季節も近づきましたが、会員の皆さんが今後生物学の進歩にとり残されることのないよう絶えずご研究下さることと、またご健康でご活躍下さることをお祈り致します。(43.11.24)

県花「ノジグク」を詠む

五十嵐 播水

印南野ののちぎく咲ける丘に来し

塩田は戻りのちぎく日に白く

のちぎくにたまに來りて黄なる蝶

本田 正次

野地菊の白きが中に黄も紅も

野地菊の花守る人の静心

東 光一

野路菊の変らぬ色薫に人の気も

残月に種摘む指の秋を待つ

猪川 耐

秋の日をはじくばかりにのじぎくの

花白く咲く丘の麓へ

尾坂 常子

いくたびか時雨れしあとの夕陽ざし

しばし輝く野路菊の上に

花充ちしのちぎくに差す夕あかり

さりげなく野の片隅にして

工 正勝

大空は澄みかがやきて野路菊の

匂ふこの丘海見ゆる丘

堤防に懸りて匂ふ野路菊の

潮さし来れば姿映りぬ

波響く播磨の灘の赤壁の

岩間に咲ける野路菊の花

松岡 秀夫

はりま野をよぎる電車の速くして

のじぎくの花ゆれつつ白し

塩田の廃墟をとほくみつつ来て

のじぎくの花とほしきに嗅く